

山梨中央ロータリークラブ

Rotary International District 2620
Yamanashi Chuo Rotary Club
2013-2014

会長 田中 雅承 副会長 原田 哲
幹事 樋貝 浩久 副幹事 田中 雅貴
会計 田中 直行 会報 原田 哲

事務所
〒409-3812 山梨県中央市乙黒 158-2
(山梨ビジネスパーク (株)カルク内)
TEL 055-273-5344 URL <http://yamachuo-rc.net/>
FAX 055-273-8010 E-mail rotary@yamachuo-rc.net

ロータリーを实践し



みんなに豊かな人生を

2013～2014 RI会長 ロンD.バートン
第2620地区ガバナー 志田 洪顯
例会日・毎週金曜日 12:30～13:30
例会場・(株)カルク (055-273-5344)

Weekly Report

2013年 11月 29日 第1609回例会

本日のプログラム 新会員歓迎夜間例会

会長挨拶

「親日家・キャロライン・ケネディー駐日大使誕生に寄せて」

会長 田中 雅承

この所、大分寒さが身にしみ、冬を肌で感じる様に成りました、お風邪を召さぬ様お気を付けて下さい。

急激の寒さも加わってか紅葉も一段と深くなり、今週末当たりの連休で今年の紅葉の見頃も終わるのではないかと思います。

会員の皆さんもご存じの様に最近、着任致しましたキャロライン・ケネディー新駐日大使の話題はテレビ・ラジオや新聞で就任式から着任式を事細かく報道をしていますので、良くご存じだと思います。

アメリカ大統領として史上最年少43歳で当選したジョン・F・ケネディー大統領は世界最大のニュースとして報道され大変びっくりした事は、当時、22歳の私には唯「すごいなー」と感嘆した事を記憶しています。

それから2年余りの1963年11月22日テキサス州ダラスで自動車パレード中に凶弾に倒れ米国はもちろん日本始め親米の国々のみならず訃報ニュースはいち早く伝えられ

たのです。現在と違い当時は米国大統領の権威が極めて高い時代背景では有りますがジョン・F・ケネディー大統領への期待、好感度は歴代大統領の中でも最も高い存在の方と聞いておりました。

その後、ケネディー家の話題は余り聞く事無く50年が過ぎ、現在キャロライン・ケネディー新駐日大使として私どもの日本へ見えられた事はあの時の忌まわしい事実を消してくれるかの様な来日となり思わず安堵と期待をしています。

11月16日(土)に行われました「地区資金管理セミナー」に出席しました。重要な所を報告して、改めて全体会議を行い会員の皆さんと打合せを致します。

今回は、本格的に「地区補助金」の申請準備と次年度の補助金に関わる計画を前倒して各クラブが作成し「参加資格認定」覚書、補助金財務管理計画書、補助金専用口座等を作成し申請内容チェックがあり、「地区補助金認定」が有ればその事業を行う事が出来る仕組みになっています。

今回の「地区資金管理セミナー」では手順と今後「地区補助金」を使用する1クラブ1活動事業費のみの50%が「地区補助金」の上限と成ります。

また、クラブの会員数が20名以下は10

万円が上限額です。

要約しますと以上ですが、詳細に付きましては卓話の時間に報告致します。

幹事報告

幹事 樋貝 浩久

1. 第2620地区志田ガバナー事務所より「ガバナー月信No.5」が届いておりますので配布致しました。
2. 第2620地区志田ガバナー事務所より「第40回ロータクト年次大会本登録のご案内」が届いておりますので回覧致します。
3. 前回ご連絡致しました通り11月29日（金）例会は「新会員歓迎夜間例会」となりますのでお間違えの無い様、宜しくお願い致します。
点鐘は午後6時30分 例会場は「新寿し」で行います。
4. 例会変更のお知らせ
なし

前回の例会記録

第1608回 出席報告

会員数	免除	出席者	欠席者	出席率	メイクアップ	前回の修正出席率
11名	0名	8名	3名	70%	4名	100%

届出欠席者 鮎川 一明君 田中 雅貴君
原田 哲君

届出失念者 なし

出席免除者 なし

メイクアップ 竹野 満君 田中 雅貴君
鮎川 一明君 原田 哲君

ビジター なし

備考 なし

ニコニコ BOX なし

菅生随想より

「人の幸せとは」

人は、その持てる知能の働きで、一人でない生きて行けないが、同時に一人では生きて行けないという矛盾に生きることを余儀なくされている。従って、人は、自分のことのみを求めているだけでは決して幸せにはなれず、却って、他人のために盡くすことによって、初めて自分の幸せを手に入れることができることとなるのであろう。

ところで、科学技術を支える知能、いわゆる左脳の一部は、これを磨けば磨くほど、人の違いが意識され、他人の欠点が目につくようになる。そのようなことでは、他人と共に働くことはできず、集団は個人に分解し、個人も自分の中で自己分裂する。これではもはや病理状態で、とても他人のために盡くすような気持にはなれない。幸せはますます遠くなる。自他の違いよりは、ごく自然に自他の共通点を意識するようになれば、他人の長所が自然に目につくようになり、ひいては他人のために盡くすようになる。幸せが近づいてくる。そのためには、科学技術の知能だけに執着してはいけない。それ以外のいわゆる右脳その他の部分の働きである知能や感性とか意志など、もっと人間の資質の全体を大切に開発して行かなければならない。

ポール・ハリスは、逝去を目前に脱稿した自伝『ロータリーへの私の道』の巻末に、「神よ、人々や国々の欠点が目に入らなくなりますように、長所だけが目につくようになりますように。一地上に平和がありますように。」という言葉を書き残しておられるが、これこそは、ポール・ハリスが、人間としての最後の困難な作業を、祈りの形でロータリーに託されたものというべきであろう。

次のプログラム 12月6日（金）

年次総会